



(インタビューの内容は2019年9月取材)

2014年
入会

資材事業本部

旭川支所 生産資材課

大森 徹

～環境科学院 環境物質科学専攻～

2014年 岩見沢支所 生産資材課

2018年 旭川支所 生産資材課

interview

安定した収量を産むために
現場へ足を運び、生産者はもちろん
自然、作物、土壌と対話を
繰り返しています。

Q1.
現在担当している
主な仕事について

作物を育てるのに必要な肥料と農薬の供給を担当しています。JAの方と一緒に生産者の家を訪問してお話を伺い、使用する肥料・農薬の提案を行っています。肥料では、土壌を分析してその圃場に合った肥料を提案し、農薬では、水田に多く残った雑草の種類を聞き取り、その雑草を減らすための防除の提案を行っています。地域内で生産されている飼料や牧草なども含むすべての作物が対象のため、幅広い分野の専門的な知識が必要となります。初めのうちはわからないことだらけでしたが、農業の1年のサイクルがわかってくると生産者の方とも理解をした上で話をすることができるようになりました。農業の分野は大学で勉強をした分野とはまったく異なりますが、研修制度やまわりのサポート、そしてやはり現場で実際に足を運ぶことで学ぶことも多く、6年経ってもまだまだ知識を高めながら日々仕事をしていますね。天候や災害などでその年によっても状況が異なる農作物を扱う生産者が、なにを求めているかを感じながら、たくさんの情報をしっかりとキャッチできるよう心掛けています。生産者の方から「あの農薬いいね」「雑草が減ったよ」と喜んでもらえることでもっと生産者の力になりたいと思い、それがやりがいへつながっています。





Q2.
ホクレンを選んだ
理由について

関東の出身のため、就職活動は主に関東を中心に活動をしていました。大学時代から北海道に住み始め、人混みが少なく環境が良い北海道での仕事もいいなと思い始めたことをきっかけに、大学で専攻していたのは工業系で、農学専攻ではありませんでしたが、北海道で働くなら農業関係の仕事で様々な人と関われる仕事がしたいと思い志望しました。今後もたくさんの人と関わりながら、北海道農業に貢献していきたいです。



Q3.
就活中の学生へ
メッセージ

ホクレンを選ぶ際に、「農学を専攻していないが大丈夫なのか?」などの不安がありました。実際に働いてみると、農学専攻外の人も多く業務に支障はありません。自身の経験から、中途半端な気持ちで分野を絞ってしまうなら、視野を広く持ち、俯瞰して見てみると自分でも気が付かなかったものが見え、経験してきた研究系よりも人と関わるほうが好きだと感じることができました。そのため、専攻外にも目を向け働きたい環境を選んでほしいですね。





Q4.
休日の過ごし方
について

休日は家族で買い物に出かけたり、子供と公園で遊んでリフレッシュしているほか、家庭菜園で野菜を育てて楽しんでいます。作物を実際に自分で育てたらどうなのか？どういう虫が出ているのか？これは病気なのか？などと思いながら育てていると面白いですね。仕事場でもうまく育たなかった事を話題に出しアドバイスをもらうこともあります。OFFの息抜きが仕事に返ってきてますね。（笑）

ワタシの必需品！
**PICK UP
ITEM**



『田植え長靴』

畑では普通の長靴を使用しますが、水田では田植え専用の長靴を使用しています。作物の生育はどうか、どのような雑草が残っているかの確認や、水田の肥料・農薬の試験調査等で圃場に入ることも多く、足が沈み動きにくい水田でも軽くでフィット感バツグンで脱げにくいので、必須アイテムですね。